

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177300043		
法人名	医療法人仁恵会		
事業所名	認知症高齢者グループホームあさひ(かえで)		
所在地	芦別市旭町60番地1		
自己評価作成日	平成25年9月15日	評価結果市町村受理日	平成26年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①ボランティア団体や個人を通じ、地域とのつながりを深めている。 ②協力医療機関と協力福祉施設が事業所の近くにあり、入居者をはじめ職員同士も交流があり、協力関係が保たれている。 ③法人が運営している病院職員による施設管理業務、受診時の送迎、施設行事の応援など、様々な協力体制が敷かれている。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0177300043-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成25年10月29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、医療法人を母体として平成14年に開設された芦別市では唯一のグループホームで、介護と医療の両輪を担い利用者、家族の安心に繋げている。周りを緑に囲まれた自然豊かな環境で、利用者のゆったりとした静かな生活を確保している。管理者、職員は地域密着型サービスとしての役割を認識し、中空知地区の事業者で情報交換に努め、質の向上を図っている。また、食事の支援に力を入れており、丁寧に出汁を取り、盛りつけを工夫した見た目にも美味しい料理を、高齢者の身体状況に配慮し、工夫して提供している。管理者と職員とは良好な関係の構築に努め、勤務年数の長い職員も多い。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が意見を持ち寄って作り上げた運営理念を事業所内に掲示している。また職員研修や広報の素材としても活用して、運営理念の浸透に取り組んでいる。	理念は職員が意見を出し合って作り上げ、事業所内に掲示されている。ネームプレートの裏にも記載して常に意識し、その実践、実現に励んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して、清掃活動や廃品回収等に同居者や職員が協力している。また、施設行事に地域のボランティア団体の協力を得ている。	町内会に加入し、地域の行事にも参加して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長は認知症サポーター講座の講師として、地域の方々にカリキュラムを通して支援方法を伝えている。また、市内の学校の職業体験学習にも協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内に回覧している広報紙に運営推進会議の議事内容を記事として掲載し、オープンな運営に努めている。	運営推進会議は年6回定期的に開催し、市の介護保険課、町内会長からの情報及び要望等を聞き、審議して議事録にまとめている。町内会の広報誌に運営推進会議の議事内容を掲載している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の指定機関として受給者を受け入れ、市の担当窓口と連絡を取りながら利用者の支援を行っている。	「中空知・地域で認知症を支える会」に参加し、他の市町村と交流を図っている。グループホーム同士の交流や情報交換を行い、より良い事業所運営とサービスの質の向上に役立っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の採用時のオリエンテーションで説明をし、以後も施設内外で研修を受ける機会を設けている。現在玄関は安全上、理解を得て中から簡単に出られない措置をとっているが、利用者に圧迫感を感じないやり方を検討中である。	採用時に、身体拘束をしないケアの実践について説明している。新任職員には、利用者に不適切な言動をしないための具体的な接遇について、研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の採用時のオリエンテーションで説明をしている。管理者は「不適切なケア」を含めて日常的職員指導を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度を利用する方はいないが、職員の採用時のオリエンテーションで説明をしている。今後は社会福祉協議会との連携を進めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金などの変更時には、説明会の開催や文書で理解をいただき、意思疎通をはかりながら一方的にならないようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や「ご意見箱」の設置、家族懇談会や家族等の来訪時など、ご家族の希望意見を取り入れる様々な取り組みを行なっている。	苦情相談窓口や「ご意見箱」を設置している。管理者、職員は家族の来訪時などに要望、意見を聞き、運営に反映するよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案をくみ上げる制度として「業務改善委員会」が設けられているが、定期的開催できていないのが課題になっている。	年に1度本部の常務理事との面接があり、職員との意見交換会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の代表者は定期的に開催される事業所の会議に出席し、また、職員との個人面談を行って職員の希望を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で就業後に「院内勉強会」を随時開催し、希望者に参加する機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム職員交流研修会を通じて、他のグループホーム職員と相互の交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの提供を前提に、本人の施設見学や自宅での面談などを行い、既に利用しているサービス提供者からの情報も活用して、本人のニーズの把握を行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を聴きながら、事業所としてできるサービスの範囲も家族に十分理解していただいてから入居していただいている。入居後も相互の信頼が維持できるように関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所のサービスの内容と利用希望者のニーズが適合しない場合は、十分に説明して本人に相応しい他のサービスの紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の「生活の場での役割」を重視した支援をその人の希望や能力を考慮しながら行なっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族でなければできないことを大切に、面会時や電話等の機会を通じて役割を担っていただいている。キーパーソンの方には本人の状況を理解していただくよう、定期的に随時に報告を行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人・知人との互いの訪問や、馴染みの美容院を利用していただくなどの支援を行なっている。	日ごろから友人、家族等の訪問があり、行事への来訪も多い。買い物や馴染みの美容院など個別の外出も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の申し送りや記録と観察を通じて利用者同士の関係を把握し、家事や余暇活動の中でお互いが交流し関わりあえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のサービスに移行した場合に同意の下に情報提供を行なっている。可能な範囲でサービス利用時や終了後に本人との面会を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向をその都度確認しながら支援を行っている。また、変化に対応しながら個別ケアを大切にしている。	利用者1~2名に職員1人の担当制をとり、アセスメント、モニタリングをして職員間で話し合い、問題の共有を図っている。利用者の個別ケアを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からは入居時や面会の際に、本人からは日々の生活の中を通じて継続して情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員夫々の視点を通じて得た情報を持ち寄り、日々の支援に活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、家族との連絡を行って、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。また、モニタリングに参加できない職員にも意見を求めている。	3ヶ月ごとにケアプランの見直しを行い、家族の意見も反映させた介護計画を作成している。疾病の変化や終末期については、家族との話し合いを重ねている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録とチェックシートを活用し、具体的な介護につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の事情に応じて通院や送迎の支援を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力医療機関主催の行事への参加、施設行事には地域のボランティアの協力を得るなど、地域資源を活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の主治医による定期回診のほか、希望する専門の診療科の受診支援を行なっている。	協力医療機関の主治医と看護師が月2回の定期回診を行っている。変化のある場合や利用者及び家族の希望する専門医の医療については、受診を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と医療連携の体制を敷いて、病気の予防と重度化の防止の相談に応じている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の看護師と医療連携の体制を敷いているので、退院後の予後についてのフォローも継続性が確保されている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行っていませんが、重度化した場合は母体の病院や地域の施設などで対応することなど説明、文書の取り交わしをしている。	利用開始時に、重度化や終末期に向けた話し合いを行い、母体の病院、地域の施設などの対応を家族に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを掲示して、備えている。また毎年「普通救命訓練」を市の消防署で全員が受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練のほか、非常時の食品等を近隣施設病院と共同で用意しており、定期的に食料の試食、補充を行っている。	事業所内にスプリンクラーを設置し、定期的に避難訓練を行っている。母体法人が運営する病院、グループホーム及び近隣の特別養護老人ホームと合同で、8日分の合同備蓄を確保しており、定期的に備蓄食料の試食や補充も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴介助、普段の会話や言葉遣いにも本人のプライドやプライバシーに配慮した対応を行なっている。	一人ひとりの人格を大切にし、排泄などの誘導もプライバシーに配慮した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自信とプライドを大切にしながら、表現が困難な利用者に対してもその人の送ってきた人生観を考慮し、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って支援しているつもりだが、時に職員の事情で個別支援の対応を十分にできないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の個性を大切にしながら身だしなみやおしゃれの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中にBGMを使用し、楽しんで食事していただけるようにしている。外食や季節の行事食などを取り入れている。食事の準備や片付けなども一緒に行なっている。好き嫌いを受け入れて個別にメニューを提供している。	献立は、利用者の希望も取り入れ、楽しみなものになるよう考えられている。食事中に音楽を流したり、配膳や盛り付けの工夫もしている。夏場はドライブを兼ねて外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量はチェック表を活用して必要量の確保を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施、義歯の保管も就寝時に個別に対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりに応じて定期随時のトイレ誘導を行なっている。	排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握している。さりげなくトイレに誘導し、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策は個別に飲食物(食物繊維の摂取)や適度な運動を基本に行なっている。緩下剤の使用は主治医や看護師と相談して使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	便宜的に入浴の予定を決めているが、実際には押しつけにならないよう柔軟に実施している。利用者の希望を聴いて、入浴剤などを使用し、入浴を楽しんでいただいている。	入浴は週2～3回を目途に実施し、バイタルチェックを行い適切に支援している。利用者の楽しみとなるよう、入浴剤などを使用し、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠や休息は一人ひとりの生活習慣に配慮して支援している。寝具や寝巻きの洗濯を定期的に随時に行ない、清潔な環境で睡眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内容が把握できるように個別のファイルで確認できるように整理して活用されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道の支援、畑仕事、日々の役割等ご本人の楽しみをみつけて、それに沿えるように支援することを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や外気浴を行ったり、全体でドライブなどの外出を行っている。また、本人の希望がかなうよう個別に外出支援したり、ご家族と外出されることもある。	日常的に散歩や外出の機会を作り、馴染みの美容院や買い物を楽しんでいる。夏場は月1回外食の機会を設け、家族との交流も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力量に応じて少額の現金を所持していただくことが自信につながることを家族にも説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が遠方で、読み書きができる方には書簡の支援を実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所が身近にあるので、生活感がある。共有のスペースを活用して、入居者と職員が協力して季節感のある飾り付けをし、来訪者にも見ていただくようにしている。	共有スペースには季節の装飾や生け花を飾り、居間としての雰囲気大切に、利用者がゆったりとくつろいで過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にもソファを配置して居場所の工夫をしている。安全上畳敷きの共有スペースが十分に活用されていないのが課題になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具やご自分の作品などに囲まれて心地よく過ごせるよう配慮している。また、混乱や危険がある時はご家に相談して引き取っていただくこともある。	馴染みの家具を持ち込んだり、家族の写真や作品を飾ったりして、その人らしい居室で落ち着いて暮らせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な破損箇所や状況などを共有シートを用いて敏速に対策を行っている。		